

Kul-Oba の壺の歯科医学史・美術史的 および民俗・神話学的考察*

森 山 徳 長**

1. は し が き

さきに筆者は、スキタイ遺宝の金器の一つ、Kul-Oba 出土の壺絵の情景をめぐる、歯科医学史上の論争につき発表した¹⁾。

歯科医学史的な論争の課題のうち、ギリシア由来かフェニキア由来かについては、すでに結論は明かである。しかし、歯科界およびその影響で美術界一般に信じられていたように、抜歯又は処置をしている状況なのか、そうでないのかについては、肯定・否定ともに確定していない。

筆者は否定的意見を取ったが、理由は主として間接的証拠による。それで、この壺絵の示す確たる意味を知る必要を痛感するので、最近の民俗学的・神話学的研究の成果からその点を審かにしてみたいと思う。

2. スキタイ人の歴史

スキタイ人の名が古代史上に現れたのは、B.C. 8世紀黒海沿岸のキンメリア人を駆逐し、さらに近東や東ヨーロッパ迄侵攻した、恐ろしい破壊力の同義語としてであった(表1, 図1)。この民俗は文字を持たなかったので、アッシリア、ギリシアの歴史的文書を通じてのみ、彼等の消息を知ることが出来る²⁾³⁾。しかし考古学者による彼等の埋葬遺跡³⁾(Kulgan と呼ばれるスキタイ特有の

高塚)の発掘によって、その物質文化も、近年かなり知られるようになった(図2)。

B.C. 6世紀初頭、彼らは再び黒海沿岸にもどり、B.C. 512年には、ペルシャのダリウス大王の侵攻に徹底的打撃を与えた。

その時期には(B.C. 6-5世紀ギリシア植民市の黒海沿岸進出により、最も直接的形で、古代ギ

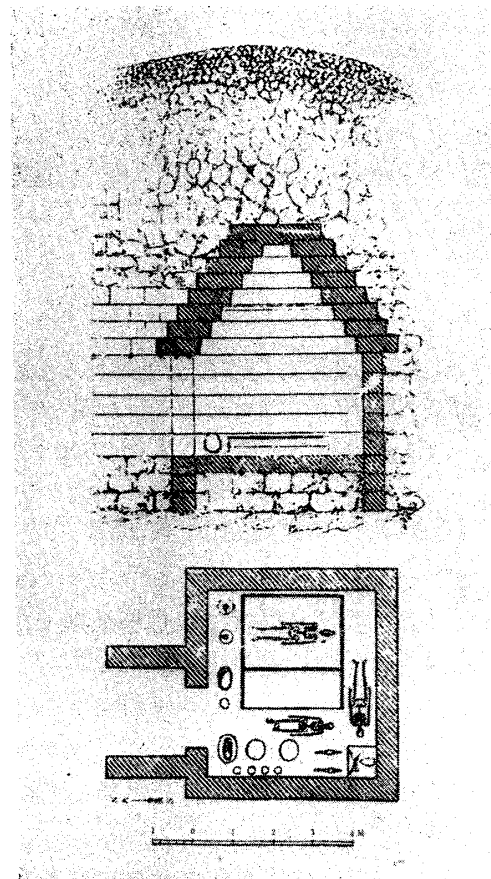


図1 Kulgan of Kul-Oba. クル・オバの高塚の断面図および平面図

高塚の構造と王、王妃、下女の埋葬位置を示す。文献2)による(Reference 2)。

* Evaluation of Kul-Oba Vase in the Standpoint of view of History of Dentistry, Fine Art and Ethno-mythology.

** Norinaga Moriyama (Tokyo Dental College 東京歯科大学)

本稿要旨は第回7日本歯科医史学会総会(1979. 10. 20於日大歯学部)で口演した。

表 1 Chronological chart of Scythia and Salmathai スキタイ・サルマタイ関連年表

800-	後青銅器時代	高 塚	関連事項	西周	770
700-	前鉄器時代		アッシリアの文書にキンメリア現れる スキタイ、西アジアに現れる	春秋	
600-		コストロムスカヤ ケレルメス	アッシリア滅亡 (612)		
500-	スキタイ		アケメネス朝成立 (550) ダリウス王のスキティア遠征	戦国	
400-		セミ・ブラチエフ	ペルシャ戦争 (492・490・480) ヘロドトスの「歴史」書かれる ペロポネソス戦争 (431-404)		
300-		ソロハ クリ・オパ チェルトムルィク カラゴデウアシフ ペスレネエフスク	アレクサンドロス大王の東征 (334-323) アケメネス朝滅亡 (330)		
200-			ローマ、イタリア半島を統一 バルチア成立		
100-	サルマタイ		クリミアにスキタイ王国ができる	秦	221 202
BC		ヴェルフネエ・ボグロムノエ		前漢	
AD			アウグストゥス、ローマ皇帝となる	新	8 25
100-		ホフラチ		後漢	
200-					

文献 2) による (reference 2)

リシア文明との接触が行われた。ボスポロス王国の首都パンティカパイオンも、その植民市の一つであった¹⁾⁵⁾。

歴史家ヘロドトスは、B.C. 5 世紀、自らこの地を訪れたが、以下の様な記述を残している。

『スキタイには町も城もない。彼等は皆馬に乗った射手であり、農耕ではなく牧畜を行ってい

る。』

彼等は馬車がその住居であり、家畜の群れのためには新しい牧場が必要であり、しばしば武力でそれを入手した。小麦は、森林草原地帯に住んでいる支配下の定住農耕民から貢物として、又酒や贅沢品は、近隣のギリシア植民地で、物交で手に入れていた。スキタイ貴族は、儀礼用容器、頸

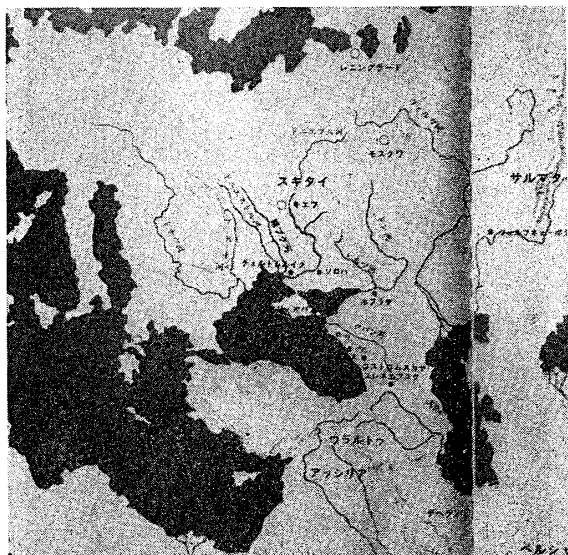


図 2 Geographical Distribution of "Kulgan"
高塚の地理的分布

南ロシアに広く分布している。文献 2) による。
(After Reference 2)



図 3 One of the relief scenes on Kul-Oba Vase
クル・オバの壺絵 4 枚の 1 枚

An operation of the mouth wound (Rostovtzeff
1922) 口腔手術の図

輪、劔鞘、装飾板などの金製品を、ギリシア植民市の貴金属工房に注文した。

Kul-Oba 出土のエレクトラム製の壺や, Veronezhskaya 出土の銀製壺などは, それらの 稀少な美術品である。もともとは騎馬遊牧民族独特の動物意匠に端を発し, 末期には, ギリシア風, 近東風の芸術の影響を受けて, 独自の発達を遂げた。

前 3 世紀には, 東方のサルマタイが, スキタイをドニエプル川流域から駆逐し, スキタイ王国の



図 4 Line Drawing of the Vase 壺絵の線画

Photograph of the line drawing in Guerini's textbook. (See the foot-note.) The original drawing appeared in Eames' article in 1886.

ゲリーニの教科書にのっている線画, 脚注にクリミヤで発見されたフェニキア起源の壺にある歯科手術の図(シグランの著書 60, 63, 287 頁を見よ)と在る。原図は 1886 年のイームスの論文にある。



図 5 Kul-Oba Vase. クル・オバの壺絵

A Scythian king is receiving the report from the messenger. (Rostovtzeff)

王が伝令の報告を聞いている(ロストフツェフによる)。

中心は, 草原クリミア地方に移された。その後次第に, スキタイは他の民族と同化し, B.C. 2 世紀には, 世界歴史の舞台からは消え去る運命をたどった²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾。

3. Kul-Oba の壺の美術史的評価

この壺絵にまつわる描写としては, Heitz(1901)のそれは, 実にすぐれた表現である(図 3, 4, 5, 6, 7)。

『病人の顔付の表現が, いかにも痛みをこらえ



図 6 Kul-Oba Vase. クル・オバの壺絵

A Scythian warrior mending a low. (Rostovzeff)
若い戦士が弓を張っている図。

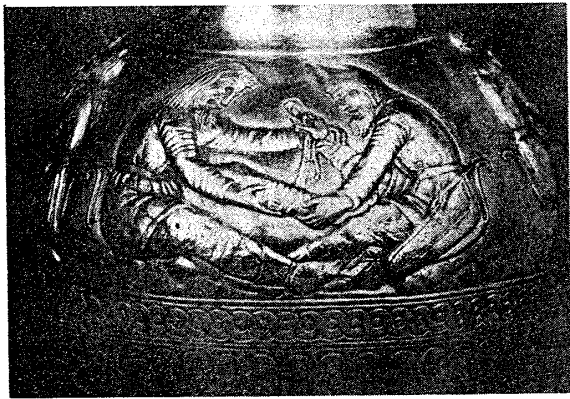


図 7 Kul-Oba Vase クル・オバの壺絵

A warrior is dressing his comrade's wounded leg.
(Rostovzeff) 戦友が足の怪我を繃帯している図。

ている風情であり、自分の膝の上に神経質そうに置いた左手のゼスチュアと、そして、彼の口内を検査しようとしているが、彼の痛みを残酷にも、もう一度よびさますかも知れないその手を支えて、不本意にもそれを防ごうとしている動き——そうした光景——の、写実性には驚嘆せざるを得ない。』

彼はこの傷が外傷なのか、またはふつうの口内の病気なのか、むずかしい質問 (question difficile!) であると言う⁶⁾。

Rostovtzeff (1922) は、同じ様式の銀製の Veronezhskaya 出土の壺に描かれた3つの絵は、平和時のスキタイの武人たちの生活を示し、年老いた戦士が若者に弓の使い方を教えているところや、スキタイ人の主要な武器と遠征中のキャンプでの



図 8 Silver Vase Excavated in Voronezh ボロネズ出土の銀製の壺

One of the 3 reliefs of Voronezh Vase. (4th cent. B.C.) An old king is teaching the use of the bow to the young warrior.

クル・オバの壺と同時代の銀器。年老いたスキタイの王(?)が、若い戦士に弓を手渡し、教えている図。

夜の情景を描写したものである。また Kul-Oba の壺は、戦いが行われたその夜の情景で王が伝令の報告を聞いたり、弓を張りなおしている一方で、足の傷に繃帯したり、口の中の手術をしようとしていると述べている⁷⁾(図8)。

Heitz は、外傷か病気をしらべようとする状況を想定し、Rostorzeff は、口内の手術を想定した。

1884年、最初のツアーの秘宝に際して、これを鑑定した Maskell⁸⁾ は、左下顎の歯を治療しているか抜歯をしていると断定した。

こう列举してみると美術史家の意見もまちまちであることがわかる。

最近になって、これら古代スキタイ習俗を描いた出土品の意味する事柄の解釈に、目が向けられるようになって、民俗学的・神話学的解釈が現れるようになった。

4. Kul-Oba の壺の民俗学的・神話学的評価

Kul-Oba の壺にレリーフで描かれた4つの絵については、Kurtz & Kurtz⁹⁾ によれば3通りの

解釈が行われているという。その第1は前項に述べた Rostovzeff の意見で、古代スキタイ人の出陣先での実際にあった情景を、刻明に描写したもので、支配階級の戦士の服装、武器その生活の実情を写した芸術器であるとするものである(図8)。

1957年 Tamara Talbot Rice¹⁰⁾ もこの見解を取っている。

第2は、Brooklyn College の Ann Farkas 準教授¹¹⁾ の意見で、これらギリシア植民市の金細工師が作ったスキタイ金器は、スキタイ人の神話上の物語りを反映、それらを描写したものとする。これは年ニューヨークのメトロポリタン美術館に、これらスキタイ金器類が公開・出品された時に発表された、一つの意見である。

第3は、モスクワ民俗学研究所の、Dmitri Rayevsky の、ヘロドトスがペルシャ戦争を描いた、歴史第4巻の話に基づき解釈である。それは1975年 Rudolph Chelminski により Smithonian magazine に引用され、また最近東京国立博物館での公開展示の際の美術品カタログにも採用された²⁾。

ギリシア神話には、オリュンポスの山の神々にまつわる種々の英雄物語りが出てくる。ゼウスの子ヘルクレスは、その代表的人物の1人であって、彼の『12の労働』の話はとくに有名である。その第10番目の仕事は、スペイン南部近くのエリティア島の、ゲーリュオーンの牛をとって来ることであった。他の場合とおなじように、彼はさまざまな困難と危険をおかして、それを完遂した。その偉業の記念に、彼がジブラルタルとケウタに作ったのが“ジブラルタルの柱”と呼ばれるものである。

ヘロドトスは、その歴史第4巻の中で、南シベリア草原地帯に植民していたギリシア人達は、ゲーリュオーンからの帰途に、ヘルクレスの船が難波してスキチアに漂着したと語り伝えていることを記している。

ヘルクレスは、そこで蛇の化身の女に逢って3人の子をもうけるが、彼の帰国に際して、この子等が成人したあかつきは、どうすべきかを尋ねら

れた。そこで彼は、その弓と腰帯を渡して、今私がするように弓の弦を張りなさい。そしてうまく張れた者を王とし、他は放逐しなさいと命じた。

Rayevsky の説では、スキタイ人の神話では、この3人の男の兄弟のうち上の2人の兄、アガサルサスとゲロヌスは弓に弦を張るのに失敗して怪我をし、末のスキテスだけが成功して王位をさづけられ、スキタイ族の始祖となったので、このレリーフはこの話を象徴するものであるという。

図8に示す、Voronezh 出土の銀製の壺絵⁴⁾の一つ、年老いたスキタイ人の王が、若い戦士に弓を渡しているところこそこの情景を示すものと考えても良いのではなかろうか。

5. 歯科医学史家の取扱いの変遷

1988年 Eames¹³⁾ による、歯科医学雑誌への初めての発表(抜歯説)は、1893年 Cigrand¹⁴⁾、1909年 Guerini¹⁵⁾、1948年 Weinberger¹⁶⁾ と1962年 Proskauer¹⁷⁾ & Witt との歯科医学史の単行本に継承され、歯科界はもとより、美術史界にも、抜歯乃至は口腔内処置とする説を伝染させた。

その理由として考えられるのは、1886年頃は近代考古学の興隆期で、世間の耳目を集めるような輝かしい諸発見が相次いでいた。しかし真に科学的といえる考古学、古代史の体系は確立されていなかった。ロシア皇帝のシベリヤ・コレクションがロンドンで公開され、Maskell による美術品カタログが発刊されたのを見て、Eames は、職業的・近視眼的判断で Kul-Oba の壺絵の一つを抜歯手術の描写と断定した。しかし職業的興味からは、当時の歯科ジャーナリズムをにぎわす好個の題材として、当然の結論であったともいえる。

これを受けた Cigrand は、抜歯説に上乘せして、Eames もギリシア由来としているこの壺を、フェニキヤ由来のものとした。前世紀末の時点で、古代地中海・黒海沿岸のギリシア、フェニキヤ植民市の分布に関する知識⁵⁾が正確に一般に流布されていたか否か、詳かではないが、約半世紀の間それが、Guerini, Weinberger, Proskauer などの歯科医学史の成書に踏襲されていたのは積然としめない。1948年 Asbell¹⁸⁾ は、はじめてこの矛

盾に一石を投じた。

これとは別に1929年医学史家 Garrison¹⁹⁾は短い取扱で、単に口腔内の検査をしている場面とした。

ギリシア文化の影響があったとはいえ、B.C. 4世紀の辺境スキタイに、高度な歯科治療の技術が存在したとは考えにくい。恐らく経験的・未発達な手段しかなかったと思われる。

6. むすび

以上の考察によって、Kul-Oba 出土品 エレクトラム製の B.C. 4 世紀 スキタイ 貴族の 葬祭用壺 絵の一枚は、Rayevsky の説のように、弓の弦を張るのに失敗したスキテスの兄の一人が口内に怪我をしたのを、同じ貴族階級の戦士の一人が、検査しようとしている情景を示すものと解釈することが適当であると考え、Voronezh 出土の銀壺の一枚は Kul-Oba の別の一枚とともに年少のスキテスが父ヘルクレスから弓を授けられスキタイの王位についた神話を裏付けるものと思われる。そしてこのことは、少なくとも、抜歯手術とは結びつかないと結論したい。

稿を終るにあたり、文献の貸与とご助言をいただいた、戸出一郎先生に深謝する。

文 献

- 1) 森山徳長：Kul-Oba の壺とスキタイ人の 歯科医療をめぐる論争。第206回東京歯科大学学会(1979.3.10)発表——歯科学報(80巻4号)投稿中。
- 2) 東京国立博物館：エルミタージュ秘宝展——レンブラントのダナエおよび古代スキタイの金器。日本経済新聞社、東京。1978。
- 3) セルゲイ・ルデニコ（江上波夫・加藤九祚共訳）：スキタイの芸術。新時代社、東京。1971。
- 4) 東京国立博物館：スキタイとシルクロード美術展。日本経済新聞社、東京、1969。pp 3-8。
- 5) CM パウラ：ライフ人間世界史（I）古代ギリ

シア タイムライフ国際出版社、東京、1970。

- 6) Heitz, J.: Note sur un Vase Grec de L'Ermitage où Sont Figurées des Opérations Chirurgicales. Nouvelle Iconographie de la Salpêtrière 14: 538, 1901.
- 7) Rostovtzeff, M.: Iranians and Greeks in South Russia. Clarendon Press, Oxford, 1922.
- 8) Maskell, A.: Russian Art and Art Objects. London, 1884.
- 9) Kurtz, M. & Kurtz, C.R.: The Mystery of the Kul-Oba Vase: A Scythian Treasure. Bull. Hist. of Dent. 23: 19-24, 1975.
- 10) Rice, T.T.: Scythians, Frederick A. Praeger, N.Y. 1957. pp. 66-67, op. cit. in 9)
- 11) Farkas, A.: From the Land of the Scythians. Thomas Hoving Ed. 1975. p. 9.
- 12) Chelminski, R.: "USSR Lends Its Dazzling Scythian Gold for American Exhibitions." Smithsonian Magazine, Apr. 1975. p. 38.
- 13) Eames, W.H.: Scythian Dentistry. Independent Practitioner 7: 290-292, 1886.
- 14) Cigrand, B.J.: Rise, Fall and Revival of the Dental Prosthesis. Periodical Publishing Co., Chicago. 1893.
- 15) Guerini, Vincent: A History of Dentistry. Lea & Febiger 1909——Reprinted. Longwood Press. 1977.
- 16) Weinberger, B.W.: An Introduction to the History of Dentistry Vol. I Mosby & Co. Philadelphia. 1948.
- 17) Proskauer & Witt.: Bildgeschichte der Zahnheilkunde. Verlag M. DuMond Schauberg. 1962.
- 18) Asbell, M.B.: Research Studies in Dental History II, The Dental Art of Ancient Scythia (Fourth Century B.C.), J. Amer. Coll. of Dent. 15: 56-63, 1948.
- 19) Garrison, F.H.: An Introduction to the History of Medicine 4th Ed., W.B. Saunders Co. 1929.

Evaluation of Kul-Oba Vase in the Standpoint of History of Dentistry, Fine-Art and Ethno-mythology.

Norinaga MORIYAMA, D.D.S., D. Med. Sc., F.I.C.D., Tokyo, Japan

The Kul-Oba vase was excavated at Panticapaeum, an old Greek colony in Crimean peninsula in 1830, and was exhibited in the South Kensington Museum of London in 1884.

W.H. Eames of St. Louis, in reported for the first time in the dental journal, that one of the four relief pictures on this vessel as it depicted the dental operation in the 4th century B.C. His description was based verbally on the work of Maskell who wrote, in 1884, a hand-book on Russian emperor's collection of ancient Scythian treasure on the standpoint of fine-art.

In 1893, B.J. Cigrand quoted verbally including the line drawing. Later textbooks of dental history by Guerini (1909), Weinberger, (1926, 1948), Proskauer (1926, 1962) followed Cigrand.

Against this view Garrison (1929) described this scene as a mere examination.

In 1948, a noted dental historian M.B. Asbell, stressing the error of the previous authors who had fallen into professional near-sightedness, concluded that this scene did not depict dental operation.

The present author, in the previous paper, consented the opinions of Garrison and Asbell. However, because some fine arts authorities still believe that this depicts dental operation, the question what really is the all comprehensive interpretation must be answered.

Recent ethnographical and mythological research clarified 3 fold interpretations. The first one is the opinion of Rostovtzeff, Rice who thought the scenes on the vase were the real life of the ancient Scythian warrior of the ruling class in the expeditionary camp. The second is that of Farkas who declared this scene reflex the scythian mythology.

The third one is the interpretation of Dmitri Rayevsky of the Moscow Institute of Ethnography, which was based on "The History, the 4th Book, by Herodotus". The tale was derived from Greek myth "twelve labors of Hercules". Herodotus described the Greeks in the Pontic steppes believed that Hercules landed Scythia by the shipwreck on the way from Geryon where he succeeded in his tenth labor. He met half woman half snake and got married.

Three sons Agathyrsus, Gelonus and Scythes were born between them. After they have grown to manhood, they were tested to string a bow left by Hercules. Two elder brothers failed and injured, one in his mouth, another his leg, however, the youngest Scythes was successful (Fig. 6, 8).

The present author concludes that this new interpretation shed another light to the long continued controversy to one of the picture on the vessel known as the Kul-Oba vase. That is to say, the picture in question depicts the examination of accidentally wounded oral lesion during stringing the bow.